

2024年8月7日  
株式会社SVPジャパン

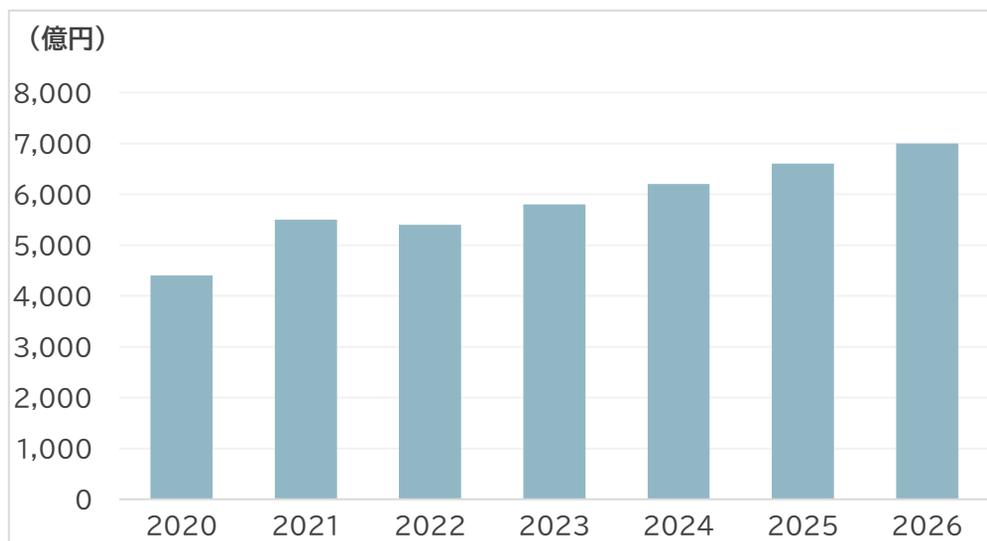
## SVP注目市場分析 「フードデリバリー」を公開

～「巣ごもり需要」によって急速に市場が拡大～



会員制マーケットリサーチサービスを提供している、株式会社SVPジャパン（本社：東京都中央区、代表取締役社長：橋本 雅、以下「SVPジャパン」）は、本日、SVP注目市場分析レポート「フードデリバリー-国内市場の現状と将来展望-」を、会員企業向けに公開いたしました。

### ■フードデリバリーの国内市場



個人経営の飲食店による「出前」や宅配ピザのチェーン店など、飲食店が「宅配」を行うサービスは従来から行われているが、近年、「フードデリバリー」のプラットフォームを運営する企業が、受注と配達の業務を代行するサービスの市場が急激に拡大している。また、2016年に米Uber Eatsが日本でサービスを開始したことが、日本におけるフードデリバリーの本格的な市場拡大の契機となり、さらに2020～21年のコロナ禍の「巣ごもり需要」によって市場が急速に拡大し、2021年は前年比25%増の成長となった。2022年は、こうした特需が終息したことで前年割れの推移となったが、2023年はプラス成長に転じ、市場規模は2021年を上回る約5,800億円に達したと推定される。今後の市場規模の予測としては、共働き世帯、単身世帯や高齢者世帯の増加を背景に、長期的に市場の拡大が続くと見込まれる。

## ■フードデリバリーの市場概況

2020年に始まるコロナ禍で、来店客の減少からフードデリバリーを利用する飲食店が急増。新たに参入するプラットフォームも増加し、市場規模が大きく拡大することとなった。2021年も、外出自粛と巣ごもり需要が長期化する中で、市場の高成長が続いた。

2022年に入り、コロナの感染対策が緩和されて外食需要が回復する一方、フードデリバリーの市場は縮小したが、2023年には持ち直し、以後、堅調な市場が拡大している。消費者の間で、外食やテイクアウトに代わる選択肢として、フードデリバリーの利用が定着したと考えられる。小規模な飲食店に限らず、ファストフードやファミリーレストランなどの大手外食チェーンでも、自社配送による宅配と併せて、フードデリバリーのプラットフォームを利用するケースが一般化している。



## ■本レポートの構成

- I. 市場の定義
- II. 市場動向
- III. 市場規模・予測
- IV. マーケットシェア
- V. 参入企業の動向
- VI. 業界構造



←レポート全編を見る クリック

※本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

## ■購読について/資料ダウンロード・お問い合わせ

本サービスのご利用は、SVP会員様限定でございます。

購読をご希望の場合、当社SVP会員になっていただきますと、定期的に配信する市場調査レポートを全てご購入いただけます。なお、SVP会員は、ビジネス調査に関する、クイックリサーチとプロジェクトリサーチもご利用いただけます。

資料請求



お問い合わせ



## ■ 次回のテーマ

9月のテーマは「マテリアルリサイクル・プラスチック」と「ケミカルリサイクル・プラスチック」を予定しています。

～SVP注目市場分析レポート更新スケジュール…毎月第1・第3水曜日の発刊を予定～

### [会社概要]

社名 : 株式会社SVPジャパン  
代表取締役 : 橋本 雅  
所在地 : 東京都中央区日本橋蛸殻町1-38-9 宮前ビル2F  
設立年月日 : 1974年7月1日  
事業内容 : 会員制のビジネス情報提供サービス  
URL : <https://www.svpjapan.com/>

### [本プレスリリースに関するお問い合わせ先]

株式会社SVPジャパン DX推進部 デジタルマーケティング課  
[info@svpjapan.com](mailto:info@svpjapan.com)